

次に、一般会計及び下水道事業会計・全会計包括の町債現在高及び今後の償還計画・推移であります。

各会計の平成 20 年度末の地方債現在高見込み額は、一般会計が約 63 億 8,600 万円、集落排水事業特別会計が 3 億 7,500 万円余り、下水道事業特別会計が 100 億 7,200 万円ほど、水道事業会計が 4 億 4,200 万円余りであります。町全体では、172 億 7,500 万円ほどであります。

次に、償還計画であります。今後の景気見通しが極めて困難なため、22 年度以降の税収減に対応する起債を全く考慮に入れておりませんので、始めに、その点をお断りしておきます。

まず、一般会計につきましては、平成 21 年度の元利償還は、8 億 1,400 万円余りですが、24 年度にピークを迎え、**11 億 3,500 万円**ほどになります。その後は、徐々に減少し、27 年度には 8 億 5,200 万円ほどを想定しております。

次に、下水道会計につきましては、平成 21 年度では、償還額が、8 億 800 万円余りで、25 年度にピークを迎え、9 億 9,500 万円余りになります。その後は、若干減少しまして、27 年度には、9 億 9,100 万円ほどになる見込みであります。

最後に、全会計合計の町債残高の推移と償還計画であります。

先ほど申し上げましたように、平成 20 年度末の地方債現在高見込み額は、約 173 億円ですが、22 年度末に 181 億円まで増加した後、減少に転じ、27 年度末には 114 億円ほどになる見込みであります。

また、各年度の償還額は、平成 21 年度の 16 億 8 千万円が、24 年度に 22 億円弱まで増加し、その後は減少に転じるものの、27 年度においても 19 億円余りの償還が必要と見ております。

財政健全化法による各指標及び今後の推移というご質問であります。

平成 19 年度決算における各指標につきましては、昨年の 9 月定例会でご報告申し上げましたように、

**平成 19 年度決算**

実質赤字比率	比率なし
連結実質赤字比率	比率なし
実質公債費比率	6.4 パーセント
将来負担比率	0.0 パーセント であります。

20 年度におけます各指標につきましては、**実質赤字比率**及び**連結実質赤字比率**については、赤字額が発生しない見込みでありますので、比率なしであります。

**実質公債費比率**は、元金と利子の合計額が 19 年度に比べ若干減っておりますので、財政規模の数値によりますが、減少すると見ております。

また、**将来負担比率**については、地方債残高の減少と基金の残高の増加により、比率なし、になる見込みであります。

21 年度以降の推移につきましては、当然、赤字決算にならないよう努めて参りますので、**実質赤字比率**、**連結実質赤字比率**は、引き続き、比率なしの見込みであります。

**実質公債費比率**と**将来負担比率**については、町債の借入額が増加と、基金等の取り崩しが進みますので、数値的には徐々に増加するのは避けられないと考えております。